

## シール業界百余年の歴史を若い世代に

令和二年元旦

理事長 北島 憲高



元号が令和に変わり初めての年明け、謹んで新春のお喜びを申し上げます。

昨年の総会におきまして平山前理事長より理事長の務めを引き継いでから半年、改めて理事長の重責をひしひしと感じる今日この頃でございます。

二〇二〇年の本年、東京ではオリンピックの開催もあり、景気の上向きも期待される向きもありますが、実際にはなかなか業績に結び付きにくく感じられていられる方も少なくない事かと存じます。

そのような状況において皆さまの会社におきましては、どのような変化・成長を求め日々研鑽に努められているのでしょうか？

印刷技術や知識、環境に対する配慮やその認証問題、深刻な人手不足など、われわれが抱える課題はとて多くなっています。

製造特許に守られていた組合運営の時代ではない今でこそ、改めて組合運営の重要性・参加活動の意義を見出せるよう理事長として努めていきたいと思っております。

そのような状況において、勉強会や懇親会なども合同で行う機会が増えてきました。

全日本シール印刷協同組合連合会 JS(シール青年部の全国連合会)などでの繋がりや日本中の同業各社や協賛会企業との会話の中でも同じような問題を耳にします。

そのような中でもそれぞれの地域の特徴を出した経営・営業をしていたり、各組合独自の内部勉強会(工場長会など)を展開したりして、我々も負けていけないと強く思いました。

このような縦横の繋がりが(世代・地域)も大事にしてシール印刷業界百余年の歴史を引き継ぐとともに、若い世代の力をもつて、これからのシール印刷業界の更なる発展へと導くべく

切磋琢磨していく次第です。二月二十九日(土)には恒例のラベル関連ミニ機材展を三協組共催で開催し、例年以上に充実した会とするよう準備しています。

ラベル組合でも今以上に支部会活動も活発化し、勉強会の開催など積極的に取り組んで参ります。つきましては組合員の皆様には組合活動に少しでも触れて頂くことにより、各社の繁栄・継続につながるようご理解ご協力頂たく存じます。

令和の時代も皆さまのご繁栄ご多幸を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。



専務理事 本間敏道



新年明けましておめでとうございます。

昨年は平成から令和へと年号が変わり、新天皇即位という歴史的な年でもありました。

しかし、平成は平か成るとは裏腹に、政治の不祥事が相次ぎ、また、親が子を殺す、子が親を殺す等といった殺伐たる世相となり、無差別殺人も後を絶ちませんでした。

さらに「いじめ問題化」が深刻化し、教師間のいじめや、親の子への虐待、等々が新聞やテレビでニュースにならない日はありませんでした。

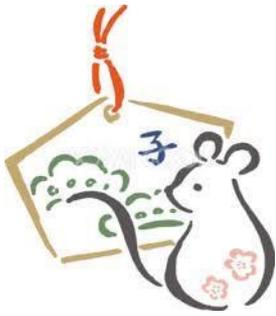
こうした中、昨年五月に平山理事長から北島理事長にバトンが引き継がれました。全国的にも理事長の大幅な若返りが図られました

が、これは令和という新しい革袋には、新しい酒をとということわざの通り、大いなる希望を抱かせるものとなりました。

若い指導者には経験不足を指摘する声もありますが、それを補って余りある組合の歴史と若さという武器を最大限に生かし、今後の組合運営を劇的に変えてくれるのではと期待しております。

組合も創立から半世紀以上が過ぎましたが、いまや二代目、三代目の時代となり、組合の役割そのものが大きく変化してきています。令和という新しい時代がどんな事態になるのかは分かりませんが、組合の存在意義を改めて問い直す時機でもあります。

どうか今年も組合員、協賛会の方々のご理解とご協力をお願いいたします。



東京都中小企業団体中央会会長 大村功作



明けましておめでとうございます。

令和で最初の新年を迎えるにあたり、皆様にご挨拶を申し上げます。

我が国経済は、雇用・所得環境が改善するなかで、政府の経済政策の効果もあり、緩やかな回復基調にあるといわれています。しかしながら、依然厳しい個人消費、深刻な人手不足、台風や大雨の風水害、消費税率引き上げと軽減税率の実施等により、中小企業・小規模事業者は厳しい経営を強いられ、景気回復の実感を得られるまでには至らず年を越しました。

このような状況の下で本会は、消費税率引き上げについて、転嫁対策や軽減

税率をテーマとする講習会の開催や軽減税率対策補助金の周知等を積極的に行うなど、会員組合並びに組合員が円滑に消費税制に対応できるよう努めました。

また、昨年の十二月には、組合の知名度向上や組合産品の販路拡大、地域の魅力発信の場として全国一体となったイベント「組合まつり in TOKYO」を開催しました。今回で三回目の開催となりましたが、多くの入場者を数え、盛会裡に終えることができました。

さらに本会は、技術・サービスの高付加価値化に取り組む中小企業・小規模事業者を支援する「受注型中小企業競争力強化支援事業助成金」や、組合等が取り組む業界の活性化に向けた取り組みに対して人的・財政的支援を行う「団体向け課題解決プロジェクト支援事業」等を効果的に実施しており、引き続き東京都に対して事業の継続や強化を要望し、組合や中小企業・小規模事業者の支援策のさらなる充実を図ってまいります。

昨年は我が国でラグビー

ワールドカップ二〇一九大会が開催されました。「ONE TEAM」のローガンの下に強く結束して強豪に挑み、ベスト8進出を果たした日本代表チームの活躍は、人々に大きな感動をもたらしました。「ONE TEAM」の精神は、協同組合の理念

を体現するものであり、ラグビーを通じて組合活動の可能性を改めて感じることができました。そして今年はいよいよ東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。

本会は2020大会を契機に組合や中小企業の受注機

会の拡大を目的とする「中小企業世界発信プロジェクト2020」を推進するとともに、2020大会の開催機運のさらなる醸成に取り組む所存です。

今年  
の干支は『庚子か  
のえね』。「新たな時代に向  
けて変化を遂げる年」と言  
われています。会員の皆様  
が組織の変革に取り組み、  
一層の発展のため未来を切  
り拓く年となることを願っ

てやみません。 本会は、今年も「相互扶助の精神を誇りとし、協同の力で中小企業、地域社会の未来を切り拓くことを使命とする」という基本理念に基づき組合巡回・相談業務さらに各種事業の効果的実施に努め、皆様のお役に立てるよう全力で取り組んでまいります。 結びに、本年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますことをご心からお祈り申し上げます。年頭のご挨拶といたします。

協賛会長 西尾 弘之



よろしく願っています。

さて、昨年を振り返りますと、日本では新しい天皇が即位し、国全体が沸き立つ中で新元号「令和」の時代を迎えました。しかし、その一方では一昨年に続いて自然災害が相次ぎ、日本列島を直撃した大型台風や、それに伴う河川の氾濫などが各地で甚大な被害をもたらしました。また海外に目を転ざると、米中貿易摩擦や日韓問題など、日本経済を取り巻く環境は非常に不透明な状況で推移しました。

ことについては、今年だけでなくどまらない中・長期的な課題として、取り組みを加速させていくための一つの大きなきっかけの年にしていかねければならないと考えています。

そうした中で迎えた今年はいよいよ東京オリンピック・パラリンピックが開催されます。多言語表示はもとより、キャンペーン関連やセキュリティ関連、あるいは環境関連など、シール・ラベルの新たな需要が期待されます。昨年、空前の盛り上がりを見せたラグビーワールドカップでの経験や採用実績も踏まえつつ、印刷会社様と協賛会各社が今こそ

「ONE TEAM」となつて、市場の新たなニーズを的確に捉え、積極的な提案を図っていく必要があります。特に環境配慮製品の開発・普及促進という

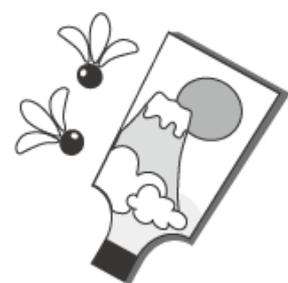
最後に皆様のますますのご発展とご繁栄を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

最後に皆様のますますのご発展とご繁栄を祈念いたしまして、新年の挨拶とさせていただきます。

明けておめでとうござ

います。旧年中は協賛会各社をお引き立て賜り、厚くお礼申し上げます。本年も引き続きご愛顧賜りますよう、

製品の開発・普及促進という





RFIDについて勉強会下は講師の向井泰範氏

組合恒例の合同支部会は、十二月六日(斤)午後四時半より、台東区上野公園の「旦那楼飯店」に於いて開催されました。

恒例の合同支部会を開催  
RFIDタグの定義と現状  
テナック招き勉強会開催



今回は最近注目されている『RFIDの定義とその現状について』と題して、テナック(株)の中野彰氏と向井泰範氏を講師に招いて勉強会を開催しました。

RFIDとは、無線通信により読み、書きを行う自動認識システムで、RFIDタグには小さなICチップとアンテナからなる「インレイ」が挟まれています。

アパレル業界での急速な浸透に加え、経産省も普及を後押しし、実証実験も行われており、経産省では二〇二五年までに商品一千億点へ年にRFIDタグ導入を合意しています。

中野氏はプロジェクターを使いながら、RFIDの仕事みや、バーコードとの比較について説明し、実際に導入している店舗の例を示しながら、バーコードで棚卸し、会計、入出庫管理、

リアルタイム在庫管理、個品管理をした場合と、RFIDsのそれを具体的に示し、いかにRFIDタグが優れているかを説明しました。

また、向井氏はICチップへの書き込み内容やRFIDタグの取り扱い留意点、以降に関する留意点について説明しました。

最後に同社が販売して好評を得ているプラスチックを焼却処分する際の発生CO2を大幅に削減する「クリーンナノCO2OFF」を紹介しました。

これはいま世界的に大きな問題になっているプラスチックのごみ問題を解決しようとして、東京理科大学の阿部教授などが開発したもので、現在各方面から注目され、今後さらに需要増が期待されていると紹介しました。

講演会終了後には恒例の忘年会が開催され、初めに北島理事長が「今年五月に理事長に就任し、あつという間に半年が過ぎましたが、来年の二月二十九日には、恒例のミニ機材展を正札、神奈川と三

協組合同で開催することにまりましたので、ぜひ出店と当日の来場をお待ちします」挨拶し、全員で乾杯しました。

最後にいつものくじ引きが行われ、景品が当たったたびに歓声が上がりました。最後のジャンケンポン本大会では、商品の全国温泉一泊二食付き招待券を、昭和レーベルの大澤雅純氏が見事ゲットし、籤運の強さを発揮しました。

**第2回ボーリング大会**  
好評につき今年も2月8日(土)に開催  
東京ポートボウル 今回も豪華賞品

## ■小病が大病を防ぐ

“ヤファアラガンジュウムン”という沖縄のことわざがある。一見ひ弱そうに見えるが実は丈夫、ちよこちよこ小病にかかるが大病を患うことなく長生きするの意味である。このことわざ

No161 健康がいちばん!

## 沖縄のことわざに見る

### 健康と病気の絶妙なバランス

には健康と病気の絶妙なバランスの意味が込められているように思える。小病を体験することで日ごろから健康に対する注意を怠らなくなる心理的効果のほかに、繰り返す小病が体に種々の抵抗力、免疫力を準備し、それが大病の侵入を防ぐ、小病が大病

化するのを防ぐという意味も含んでいる。

子供は大きくなるまでに幾度となくかぜ、熱、下痢を体験する。親にとっては心配なことで、子育ての苦労の避けられない試練の一つであるが、そんな中から子供の体は外界からのさまざまな侵入物（感染）に対する強い抵抗力を獲得していく。小さな擦り傷から骨折に至るけれどもこの時期、絶えない。しかし、そんなけがを体験しながら、子供はどんな遊びが危険で、何がしない転び方や微妙な運動バランスを獲得していく。

## ■安全至上主義の落とし穴

誤解を恐れず言えば、全く危険を伴わない遊びはないわけで、また私の子供のころの経験では少々危険な遊びほど目が輝いたものである。あるリスクを伴った経験の中から種々の抵抗力、危険への備えを獲得する。リスクにだけ注目すると、あれは危ない、これも危険と制約ができ、いきおい経験を狭めることになる。こ

れは木を見て森を見ない発想で”安全至上主義”の親の陥りやすい誤りである。

若い人に”清潔志向”がプームだと報道される。滅菌文房具や滅菌小物、はては自分の便のにおいを消す薬もはやっているとか。汗のにおいが一種男らしさのシンボルだったのははるか昔だが、路地のどぶや、少し郊外に出ると漂った畜舎のにおいも随分前に消えてしまった。住宅や職場にクーラーが無いのは少数になり、クーラーの効いた車で通勤すれば、沖縄にいて汗をかかない夏を過ごせるようになった。

## ■清潔と不潔にも絶妙なバランス

スーパーで買い物をするれば、きれいにさばかれた肉や魚のパック詰め、土気のないこぎれいな野菜が並んでいる。そんな時代の延長の上に清潔志向の世代が出てきたように思う。これは社会現象で、その背景は社会科学的な解析が必要だろうが、そんな“清潔志向”も清潔と不潔（健康

と病気に潜む絶妙なバランスに対する誤解が一つあるように思えてならない。がんの末期医療や臓器移植に絡んで、生と死の問題がマスコミにも多く登場するようになった。死を忌み嫌い、対峙し、あるいは避けてきた医学・医療の歴史は、反省期にさしかかっている。

## ■死を忌避した生はいびつに

核家族化し、また病院医療の普及で死をみとることがほとんど無くなった現代生活からは、死を身近に体験しない世代が輩出すると指摘する人がいる。ここにも生と死（健康と病気のアナロジー（類似））がある。死とさまざまな交流のある生が本来健全であって、おそらく死を忌避した生はいびつで、偏狭になるのではないだろうか。

私は患者さんに”ヤファアラガンジュウムン”の効用を話すことが多い。

《引用資料》

<http://www.okinawa.med.or.jp/>

## コンセプトはリサイクル&リデュース ペットボトルから生まれた合成紙



総合フィルムメーカーである東洋紡(株)は、環境対応のラベル素材、ペットボトルから生まれた合成紙

“カミシャイン<sup>®</sup>”を上市しました。“カミシャイン<sup>®</sup>”とは、市場から回収したペットボトルを原料に2

5%以上用いて製膜した白色のポリエステル系合成紙です。内部に空洞層を有することにより、極限まで軽量化を図り、低コスト化・省

資源化を達成しました。また、しなやかな風合いを持ちながら、打ち抜き適性や断熱性にも優

れています。さらにPETの特性により耐熱性・寸法安定性・耐薬品性・強度にも優れた合成紙です。

また“カミシャイン”は「PETボトルリサイクル推奨マーク」を取得しており、本合成紙を使用したラベル、製品にも同マークを付与することができ、主な特長は次の

■リサイクル(ペットボトルリサイクル原料を25%以上使用しているエコな合成紙です)

①薄膜化  
“カミシャイン”は50mmでもコシがありますので、一般的なラベル用PET系合成紙80mmと同様に使用することが可能で、プラスチックラベルとしての容量を大幅に削減できます。

②軽量化  
通常のPETフィルム素材と比較し、約30%も

の比重を低減しており、大幅に軽量化・省資源化を達成しております。

■CO2削減

軽量化とペットボトルリサイクル原料の使用により、約34%ものCO2を削減しています。(同厚みのPETフィルム生産の場合との比較)

■ハイコストパフォーマンス  
これまでの環境対応素

材は価格が高いことがデメリットでしたが“カミシャイン”は高いコストパフォーマンスを実現しています。

■PETボトルリサイクル推奨マーク  
消費者に環境貢献をアピールできる「PETボトルリサイクル推奨マーク」を掲載することが出来ます。(PETボトルリサイクル推進協議会への申請により)

■GRS認証取得  
“カミシャイン”の原料は、国際的な環境認証であるGRS (Global Recycled Standard) 認証を取得しております。

■様々な用途展開  
POPラベル、卵パックラベル、食品ラベルなどラベル全般の他、ブリスタ台紙、ポーション用などへの用途展開が可能です。

“カミシャイン”に関するお問い合わせは、東洋紡(株)東京工業フィルム営業部まで。TEL 03・68

